

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。御父母、保護者の皆さまには、お子さまのご入学を心よりお祝い申し上げます。

日本福祉大学学長として、附属高校の新入生の皆さんのこれからの高校生活への期待を込めて、お祝いの言葉を送りたいと思います。

これまでの3年間、私たちは新型コロナウイルス感染症に苦しめられてきました。それぞれ色々大変なことがありましたが、そのなかでも人は人を信じて、つながりを大切にしてきました。ソーシャルディスタンスと言われ、感染対策として人と人の距離を取りなさいと言われるなかで、私たちはどうしたら、人と人とのつながりを切らないようにできるか、いろいろな工夫や挑戦をしてきました。それは私たち人間の叡智だと思います。

今も決して新型コロナウイルスが根絶したわけではありませんが、感染には十分に留意しながらも、社会は新しいステージに移っていきます。それは決して3年前に戻るわけではありません。これまでの経験を踏まえて、これから新しい時代をつくっていくのです。

新入生の皆さんは、これから始まる高校生活で、ぜひ多くのことに挑戦してください。やってみたいと思ったことを、勇気をもってチャレンジしてください。附属高校の先生方は、きっとみなさんの希望や夢を受け止めて、一緒に考えてくださることと思います。

みなさんが、生き生きと学ぶこと、いろいろなことに挑戦すること、そしてマスクを外して、友達と笑いあい、語りあうこと。そのことが、アフターコロナにむけて、新しい社会をつくっていくことにつながるのです。

その際に、日本福祉大学の附属高校であることを最大限に活かして欲しいと思います。附属高校の教育プログラムとして、大学教員や学生と接し、共に学び合う機会があります。その機会を通じて、日本福祉大学ではどんな社会課題の解決に向けて、どのような研究や教育を行っているのかを具体的に知って欲しいと思います。

日本福祉大学は、1953年に創立された、社会福祉系の大学として、日本の中でもっとも歴史のある大学です。今年は学園創立70周年という記念すべき年にあたります。本学を創立された鈴木修学先生は、昭和初期から戦後にかけて、ハンセン病者や戦災孤児など、社会的に弱い立場にある人たちを救済し、しあわせな生活を送れるように支援する福祉活動を行われました。その活動を深める中で、人々の支援に専門的に携わる人材を養成する必要性を強く感じられて、本学を創立されたのです。

ただし鈴木修学先生は、困っている人たちだけを助けるのではなく、すべての人たちが幸せになれるようにするためにはどうしたらよいかを考えられました。自分のことだけを考えるのではなく、他者のことを我が事のように思いやることができる、大慈悲心や大友愛心を身につけて、

社会をよりよくしていく志の人を日本福祉大学で育てようとしたのです。その精神は今も大切に引き継がれています。

70年前、開設当初は、社会福祉学部1学部からの出発でしたが、現在は8学部10学科6大学院研究科を擁する、ふくしの総合大学となり、日本の社会福祉を牽引しています。そのなかには、みなさんのような附属高校で学んだ先輩たちが大勢、活躍してくれています。

おわりになりますが、今日入学された皆さんが、附属高校での充実した学びと活動を積み重ねて、それぞれに抱かれている夢や希望の実現に向けた歩みを着実に進められるとともに、3年後の2026年の春には、日本福祉大学の学生としてお会いできることを願い、私の祝辞といたします。

あらためまして、本日はご入学おめでとうございます。

2023年4月6日

日本福祉大学学長 原田正樹